
Creator ~ 創造者 ~

高屋 巧

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Creator 創造者

【Nコード】

N8189K

【作者名】

高屋 巧

【あらすじ】

身の周りにある様々な物質を使ってありとあらゆる物を創ること
クリエイトのできる創造という魔法を使う者たち、それを人は『創造者』と呼ぶ。

そんなストミア王国の首都、レストにある一人の少年がいた。

登場人物紹介・用語解説（前書き）

魔法使い。その名の通り魔法を使える者を指す言葉である。その魔法使いの中でも『創造^{クリエイト}』という特殊な魔法を使うことのできるごく一部の者のことを総称し、『創造者^{クリエイター}』と呼んでいる。クリエイターは身の周りにある様々な物質を元にし、ありとあらゆる物を創造^{クリエイト}するという能力を持っており、その非凡さ故に太古の昔から人々に恐れ戦かれてきた。．．が、それも今は昔、である。初めてストミア王国にクリエイターの国王が就いた1500年代後半頃から徐々にクリエイターが神聖なものと認識されるようになり、それまでクリエイターたちの中にあつた『自分達の身分をを隠す』という習慣が無くなり、その存在が一般化されるようになった。現代では主に建築関係（殆どが現場）の職業に就き、各々の住む街・地域の発展等に尽くしている。そのほかにも多種多様の職に就き、今を担う人々として尊敬されている。そんなストミア王国の首都、レストにある一人の少年がいた。

登場人物紹介・用語解説

<登場人物>

・セハ

ストミア王国の街、レストに住む15歳の少年。父と母の死に不信感を抱いている。

周りには隠しているが、実は^{リアル}真クリエイターである。

・セル（セハの父）

^{リアル}真クリエイター。一年前、仕事中の事故で死んだとされている。秘密である計画を考え、進めていた。

・ナハ（セハの母）

^{イミテーション}偽クリエイター。セハの父と一緒に仕事中の事故で死んだ。

セハの父の計画のを知り、それに協力していた数少ない人物の一人。

・ダリ

セハのいとこ。18歳。父は行方不明で生まれてすぐに母を亡くし、セハの両親に引き取られていた。

建築関係の職業に就き、セハの両親を手伝っていたが、事故当時は現場に居合わせていなかった。

<用語解説>

・ストミア王国

ベルン国王の治める王国。

・レスト

ストミア王国の中の首都。かなり治安がよく、争いも無い、平和な街。

・トミアの街

ストミア王国の姉妹都市。

・クリエイター

クリエイト創造という魔法を使い、主に建築関係の仕事をする人々。

人口がとも少なく、なることの困難な職業。

生まれながらにしてクリエイトリアルを使える真クリエイターと勉強、

クリエイト訓練をして創造を習得する偽クリエイターがある。

登場人物紹介・用語解説（後書き）

登場人物・用語解説は物語の進行に並行して書いていきます。

（この世界は現実の世界とは全く関係がありませんが、年は現代と同じ所まで進んでいるものとします。）

ブローグ

「おまえはクリエイターだ。でも、絶対に自分がクリエイターだなんて他の人に言っちゃだめだからな」

優しかった父。

いつも忙しい仕事の合間を縫って遊んでくれた。

「なんでクリエイターってゆったらだめなの？」

いつも僕の中にあつた疑問。

「おまえが十五歳になった日にすべてを話してやろう」

父はいつもこう言っていた。

でも、その日は永遠に來ない。

父は・・・

ガララッ

「セハ！！セルさんとナハさんが！！」

数時間後、、、

そこには白い布をかぶせ、横たわる父と母の姿があった。

仕事中の事故だったらしい。

父と母は二人ともクリエイターだった。

「嘘だ、嘘だ、嘘だ！！！」

その日は誰とも口はきかなかった。

家に帰って泣いた。

悲しみを洗い流すように。

そしてすぐに寝た。

次の日はいつも通りの生活ができた。

不思議と自分の中の悲しみは消えていた。

それから一年、

今日は僕の十五歳の誕生日。

1・誕生日

ガラツ、

静かな音を立て、扉が開く。

豪華でもなく、また、貧相でもないその家に少年は帰ってきた。

「・・・」

無言で靴を脱ぎ、リビングに入った。鞆を置き、椅子に腰を掛ける。

そして、ふと朝のやり取りを思い出す。

*

「セハ、今日パーティやろう」そう言ったのはこのセハという少年と共にこの家に住む青年、ダリだ。

「あの日からお前の誕生日、一度もちゃんと祝ってなかったろ。そりゃあんなことがあってへこんでんのはわかる。俺だつてめちゃくちゃ辛かったよ。でもさ、いつまでも過去のこと引きずってちゃ何もはじまんねえよ」

今日はセハの15歳の誕生日である。

そして『あの日』というのはセハが両親を失った日だ。

仕事中の思いがけない事故だったらしい。

『創造者^{クリエイター}』であつた両親は二人とも建築関係の仕事をしており、その日も現場での仕事だった。組み立てていた鉄のパイプが何故かバランスを崩し、二人に落ちたという。

そもそもセハは『あの事故』のことを本当には信じていない。父のセルは『真^{リアル}クリエイター』であり、鉄パイプが落ちてきた程度の事故くらい回避するのは朝飯前だったはずだ。また、母のナハは『偽^{イミテーション}クリエイター』という自らの努力でクリエイターとなった人間である。そもそも創造^{クリエイト}という魔法は一般人が使いこなすには並大抵の努力ではかなわないとされ、多少魔法が使える者はおるか、大量の魔力を持ち、それを完璧に扱う者にとつても会得の困難な魔法である。

そんな母は幼きころにクリエイターになることを決意。国で一番の魔法科大学をトップに近い成績で卒業（もちろん、その中には真^{リアル}クリエイターもいた。いかにナハが優秀だったかがうかがえる）、その後しばらくしてクリエイターの資格をとり（『クリエイターの資格』という表現は曖昧である）、現在の職に就いた。そこで父と出会ったという。

元々、魔力の量、扱いに関しては群を抜いていた彼女は建築関係の仕事の中でも重宝される存在だったという。

即ち、二人ともその程度のことなら問題なかったはずだ。

そして、セハも真^{リアル}クリエイターだった。
しかし、父からは強く「自分がクリエイターであることを誰にも言うな」といわれており、人には一度もそのことを明かしたことは無いが、今となってはその理由は謎に包まれている。

ダリは出生する前に父親が行方不明、母はダリを産んですぐに亡くなってしまったため本当の両親を知らず、悲劇的な人生を歩もうとしていたのだが、ダリの母親と交流のあったセハの両親が赤子を快く受け入れ、自分の子供のように育てた。

そのため、セハとダリは本当の兄弟のようでまた、ダリはセハの両親を本当の両親のように信頼、尊敬していた。

「俺も父さんと母さんがそんな事故で死んだってことは信じてねえ。でも、二人はもうこの世にはいねえんだ。だから、その事実を受け入れて、今日は再出発って意味も込めて、誕生パーティーしようぜ」

「・・・うん」

そして、

「パーティーっていつでも2人だけだけどね」

セハは苦笑しながら言った。

「それを言うんじゃない、バカッ!!」
「ダリも笑いながら答える。」

そんじゃ、帰りに色々買ってくるわ

そう言っただりはセハより先に家を出た（セハはこの後学校へ行った）。仕事というのは勿論、建築関係である。最近はクリエイターを目指し、勉強しているとか、

*

セハの心は沈んでいた。

確かに朝、ダリが言ったことは正しい。自分でも分かっている。前を向かなくては何も始まらない。でも、

真実を知りたい

心に深く根付いたその思いだけが両親の死から3年、セハの時の歯車を止めていた。

「父さん、母さん、本当のことを教えてくれよ」
そう呟いてみる。しかし、答えは空しくも返ってこなかった。

*

「ん？」

ふと、かつて父が使っていた書斎に目が行く。
いつもは静けさしかない部屋。だが今は違う。異様なまでの魔力
が溢れ出しているような気がした。

吸い寄せられるように書斎に入ってみると、机の上に朝には無か
った白い紙が置いてあった。

「これだ」

セハには直感でわかった。

この巖かでどこか優しい感じの魔力。

次に何をすべきなのかもわかった。

幼い頃、父からクリエイターとしての手解きを受けている時に教
わった自分と父だけしか知らない方法で練った魔力、それをその紙
に注ぎ込む。

すると、その紙に黒い文字が浮かび上がってきた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8189k/>

Creator ~ 創造者 ~

2011年10月6日19時49分発行